



ゆりやん、ガサキング
寺町、城内を歩く!



祝!! 再建決定

築城名人・戸田氏鉄と尼崎城

尼崎にお城があったのをご存知ですか？
沖から見ると、海に浮かんでいるかのように幻想的で美しく、「琴浦城」と呼ばれていたとも伝えられている尼崎城。これまで多くの人に知られることなく、尼崎=工業都市とは言われども、尼崎=城下町と言われることはあまりありませんでした。ところが、その尼崎城が2018年によみがえります。再建に向けて尼崎城プロジェクトが始動しています！
ここでは、築城名人・戸田氏鉄が建てたかつての尼崎城や、再建される尼崎城について紹介します。

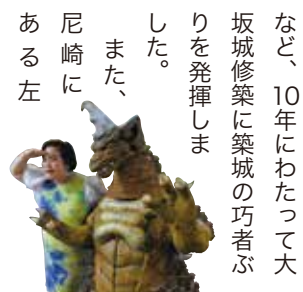


尼崎城を建てた築城名人

大坂夏の陣後の1617年、譜代大名であり、幕府の信頼の厚い戸田氏鉄が尼崎城の築城を命じられました。城は、甲子園球場の3.5倍の敷地に建設され、同時に城下町の整備も進められました。
氏鉄は、1620年から大坂城の修築にも携わります。大坂夏の陣で滅亡した豊臣氏の城を埋めて、新たな城を築く大工事です。氏鉄は、本丸天守台と堀の工

1615年、江戸幕府と豊臣氏との間で起こった大坂夏の陣。その終結後に江戸幕府が西国支配の拠点とした大坂の守りを固めるため、幕府の命で戸田氏鉄（とだうじけつ）によって築城された尼崎城。当時の尼崎藩は、西は須磨までをも領有する五万石。
ところが、時が流れ、明治時代になると廃城となり、売却されたり、取り壊されたりして、大正時代にはほとんど跡形もなくなっていました。
その姿を見ることができないために、これまでその存在が多くの人に知られていなかった尼崎城ですが、このほど、家電量販店の創業者である安部詮治氏の寄贈により、天守がよみがえることになりました。現在、公園や広場など周辺整備も含めた尼崎城プロジェクトが進んでいます。

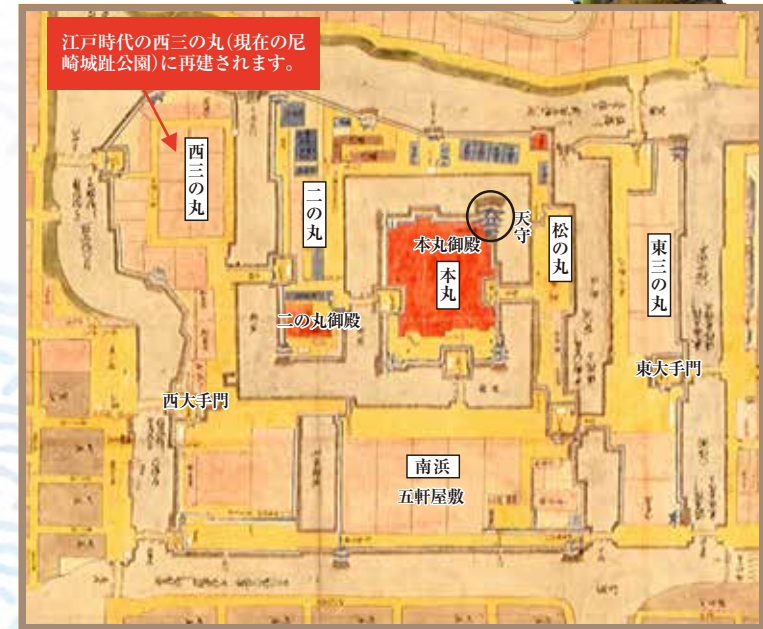
など、10年にわたって大坂城修築に築城の巧者ぶりを発揮しました。
また、尼崎に門殿川は、氏鉄が拡張改修を行なったことから、その名が付けられました。（氏鉄の通称が左門）。
尼崎にいたること18年。氏鉄は1635年に幕府の命で美濃国大垣（岐阜県大垣市）に移りました。尼崎にいたる間の功績から、10万石への出世となったのです。



戸田氏鉄 銅像(大垣市)

立派すぎる四重天守

三重の堀、四重の天守の尼崎城は、五万石の大名の城としては大きすぎるのではないかとされています。江戸城、大坂城や力のある大名の天守は五重ですが、大坂の陣の後、新たに天守を整備すること自体珍しく、尼崎城には西国の大名に対して大坂の西に譜代大名の大きな城があると知らしめ、にらみを利かせる意味が込められていると考えられます。もちろん、再建されると考えられます！



尼崎城下家中屋敷町屋其他色わけ絵図(尼崎市教育委員会蔵)

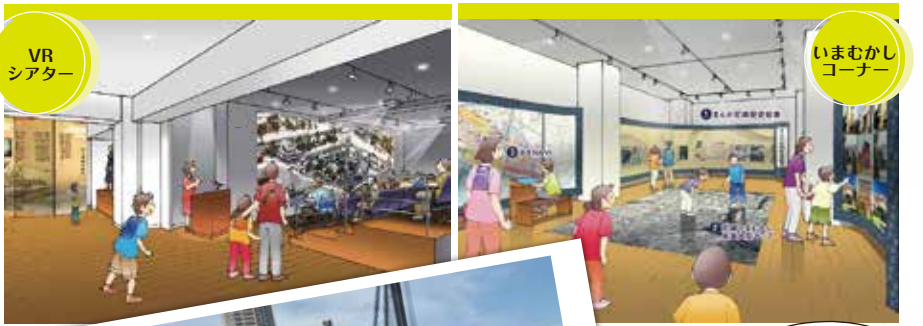
再建される尼崎城は、寸法が書き込んだある江戸時代の「尼崎城分間絵図」などを参考に建てられます。内部は、体験や展示などを楽しめるほか、イベントの開催など交流ができるお城として計画が進められています。「タイムスリップ尼崎VRシアター」、「近世尼崎城下体験コー

尼崎城はこうなる!

ナー」、「わがまち、あまがさき展望台」などが計画されています。
城の周辺は公園が拡張整備され、さらに、現在の文化財収蔵庫と地域研究史料館を併設した歴史館機能を整備するほか、遊歩道や観光案内情報板を設置していきます。城内地区が、城を核として、新しいエリアへ生まれ変わろうとしています。



完成予想図



VRシアター

いまむかしコーナー



2018年秋頃に完成予定の尼崎城。現在、着々と建設が進められています。2017年10月以降は石垣が築かれ、徐々に姿を現していきます。



お城の周りも整備されるよ~

おぎはら いっせい
萩原 一青さん
尼崎出身の城郭画家 (1908年~1975年)



東大物町の自宅にて

尼崎城下築地町出身の城郭画家。故郷の尼崎城をはじめ、全国各地の城郭の復元画制作を志し、露天商や日雇い労働者として働き、お金がたまと全国を旅して、生涯描き続けた。8年かけて103種のシリーズを完成させた百名城手ぬぐい(上図)は、2017年に堺市の元染色職人池田公治さん宅で見つかり、尼崎市に寄託された。再建される尼崎城内の展示に活用される予定。